

No

32

友だちとかかわりが深まる中で、自分の思いや考えを發揮し、
友だちに認められることを喜ぶ。 …やさしい子ども…

A君のせいじゃないよ


運動会に向けてリレーの練習を
していた時

10月

☆ 視点に関わる背景（4月からの状況） ☆

年長児になると様々な行事に向けての活動や、年長児ならではの遊びを経験することで、クラスが同じ目標に向かって協力したり話し合ったりする姿が多く見られるようになってきた。しかし一方で、テレビやゲームの話や遊びが多く（自分たちにしか分からない遊び、話、言葉）人とかかわりが薄くなっていることがあらゆる場面で見られるようになってきた。

☆ 接続期の状況（～リレーの時間～） ☆

子どもの姿・子ども同士のかかわり	保育者の援助・視点
<ul style="list-style-type: none"> ・運動会に向けて、年長組全員によるリレーの練習が始まった。 ・白組はいつも負けてしまう。悔しさから泣いてしまう子や練習を嫌がる子もいる。 ・保育者は、白組がどうすれば勝てるか作戦会議を提案し見守る。 ・A男は、運動に苦手意識がある。特定の友だちと、テレビやゲームの話をしていることが多く表情に乏しさがみられる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・「赤組には足の速い人がいっぱいいるから無理だよ」「勝てるわけないよ」とあきらめるような発言が多いなか、運動に苦手意識のあるA男が… <p>A：「ぼくのせいだよ。ぼくがいつもB君に抜かされちゃうから負けちゃうんだよね」と目に涙をためて発言する。すると、</p> <p>C：「ちがうよ！ A君のせいじゃないよ」</p> <p>D：「そうだよ、ぼくだって抜かれたことあるし」</p> <p>C：「抜かれてもまた抜かせばいいんだよ！」と、A男をかばう姿が見られた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者は子どもたちだけで話し合える場を設け見守る。 ・A男は運動に苦手意識が強い。これまでも、チームの勝ち負けを気にしている様子もなく、勝てずに悔しがる様子もなかった。しかし、何度も負けて友だちが悔しがる姿を見ているうちに「ぼくのせいだ」という感情が湧いてきたようだ。 ・「先生も、A君のせいじゃないと思うよ。みんなの前で自分の気持ち伝えられてよかったね」 ・「誰かのせいにするんじゃないくて、また頑張ろうとする気持ちすごいね！ A君も嬉しかったと思うよ」 ・保育者が、A男、C男、D男の気持ちや発言を受け止める。
<p>A男の保護者に話の内容を伝え、発言や気持ちを認めてもらった。家庭では、A男の希望により、親子で走る練習をしたようだ。園と家庭とで連携して、運動に対しての苦手意識をやわらげる働きかけをしていった結果、A男は自信をつけ始め友だちとかかわり方も変わってきた。</p> <p>その後白組は、負ける度に自分たちで集まるようになり話し合う様子が見られ、練習を重ねていくうちに勝つことも多くなってきた。A男も大声をだし友だちを応援する姿や、勝つと飛び跳ねて喜ぶ姿が見られた。</p>	

☆ 接続期の指導場面における配慮事項 ☆

接続期に行事や遊びを通して、共通の目的に向かって取り組みたくなる状況づくりをすることで子どもたちの仲間意識が育っていく。この時期は、子ども同士が互いに刺激し合い力を合わせて活動し、満足感や充実感を味わう経験を積み重ねていくことが大切である。保育者は互いの言動や気持ちを受け止め、ほめたり共感したりしながら繰り返し挑戦するように促している。